



Tokyo Tech

「第Ⅱ期 ENS 次世代社会創造人材育成プログラム」のご案内

この度、東京工業大学 環境・社会理工学院は社会との連携強化のために、ノンディグリー教育プログラム「第Ⅱ期 ENS 次世代社会創造人材育成プログラム」を開講することにいたしました。

プログラムのサブタイトルは「2100年に向けた都市づくり」です。建築・土木技術の視点からだけではなく、「都市づくり」をより広く、包括的に学んで頂く機会を提供することを目的としました。「都市づくり」には建物や道路・橋などのインフラを作る技術だけでなく、そこに働き暮らす人の生活を考えた制度や街のコンセプト作りが必要です。それを踏まえ、今回のプログラムではゴミや廃棄物の処理問題、コミュニティのあり方、環境・エネルギー問題、などの社会生活の視点からも都市を考える講義を設けています。技術系の研究者だけでなく人文学の研究者にも参加してもらい、建築・土木技術の変遷や発展だけでなく、それら技術に対する人々の考えの変遷や発展についても考える機会を設けています。サブタイトルを「2100年に向けた」としたのは、これからつくる建物やインフラ設備の多くは2100年にも存在し、そこで暮らす人々に生活基盤を提供するからです。人々の意識や考えを議論することは大変重要な要素だと考えています。

今般提供するコース、「2100年に向けた都市づくり」は具体的には三つの科目「I これまでの都市づくりを振り返る」「II 自然災害から都市を守る」「III スマートでうるおいのある都市をデザインする」科目とそこで学んだことを集約するMOT、グループ課題発表から成っています。

「I これまでの都市づくりを振り返る」(3~12回、3/18~5/13)では過去から今現在までの都市づくりの技術とそれに付随する問題を学び、現状について理解して頂くことをねらいとしています。それに続くII(13~22回、5/27~7/29)、III(23~32回、8/19~10/14)は、今後の都市づくり、将来技術と将来に向けた都市課題を議論します。「II 自然災害から都市を守る」では自然災害に対する安全の面から、「III スマートでうるおいのある都市をデザインする」では豊かさのあり方の面から都市づくりを考えることを意図しています。

3月4日~11月18日まで9ヶ月37回に渡る、ノンディグリー教育プログラムとしては比較的長期なプログラムで、企業の方が通して参加するのは簡単ではないかもしれません。1回2時間37回の講義は、大学本科のIコマ100分では44回の講義時間に相当します。現在東工大では100分の講義7回が1単位ですから、6単位分以上の講義相当と言うことになります。これからの産業を担う人材にはこうした広くかつ実践的な視点から都市づくりを考える機会を持つことが重要であり、そうした人材を育成するためには必要不可欠な内容だと考えています。これからの御社を担う若手社員の方々に受講して頂きたく、ご検討頂ければと思います。

すでに都市づくりにある程度専門性があり、専門の見直しという立場からの学習機会を求めておられる中堅・シニアの方々のために科目単位で履修することも可能としています。また今回はZOOMを用いた遠隔講義を実施する予定です。そのため東京近郊のみならず地方からご参加頂くことも可能となっております。科目ごとのワークショップのために前週金曜日に東工大田町キャンパスで対面のグループワークも取り入れますが、ご参加できない方にはZOOMで参加出来るよう準備する予定です。

説明会を本年2020年12月17日(木)と2021年1月14日(木)にZoomを用いた遠隔にて開催いたしますので、御社担当部署様へのご紹介を頂けますよう御願ひ申し上げます。

2020年11月16日
東京工業大学 環境・社会理工学院
副学院長 後藤美香